

県内企業景況調査結果

(2026年1~3月期実績、2026年4~6月期見通し)

— 県内景況は、拡大している —

(前回)県内景況は、拡大している

- 業況判断D.I.は「好転」超幅がほぼ横這いとなり、16期連続のプラス
来期は「好転」超幅がやや縮小する見通し (4ページ)
- 景況天気は15期連続の「晴れ」。来期も引き続き「晴れ」となる見通し (7ページ)

■主要D.I. (カッコ内は前回調査からの変動幅、単位:%ポイント)

(参考)

	業況判断D.I.	景況天気	売上D.I.	採算水準D.I.	資金繰りD.I.	雇用判断D.I.
当期実績	11.8 (+0.6)	晴れ 20.3(+2.1)	17.6 (+6.1)	37.6 (+2.1)	5.6 (▲2.0)	55.2 (▲2.0)
来期見通し	6.9	晴れ 16.6	17.0	32.7	0.0	55.2

※本調査の回答期間は令和8年2月16日~令和8年3月6日となっており、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格上昇の影響等、最新の動向が十分に反映されていないことにご留意ください。

[調査内容についてのお問い合わせ先]

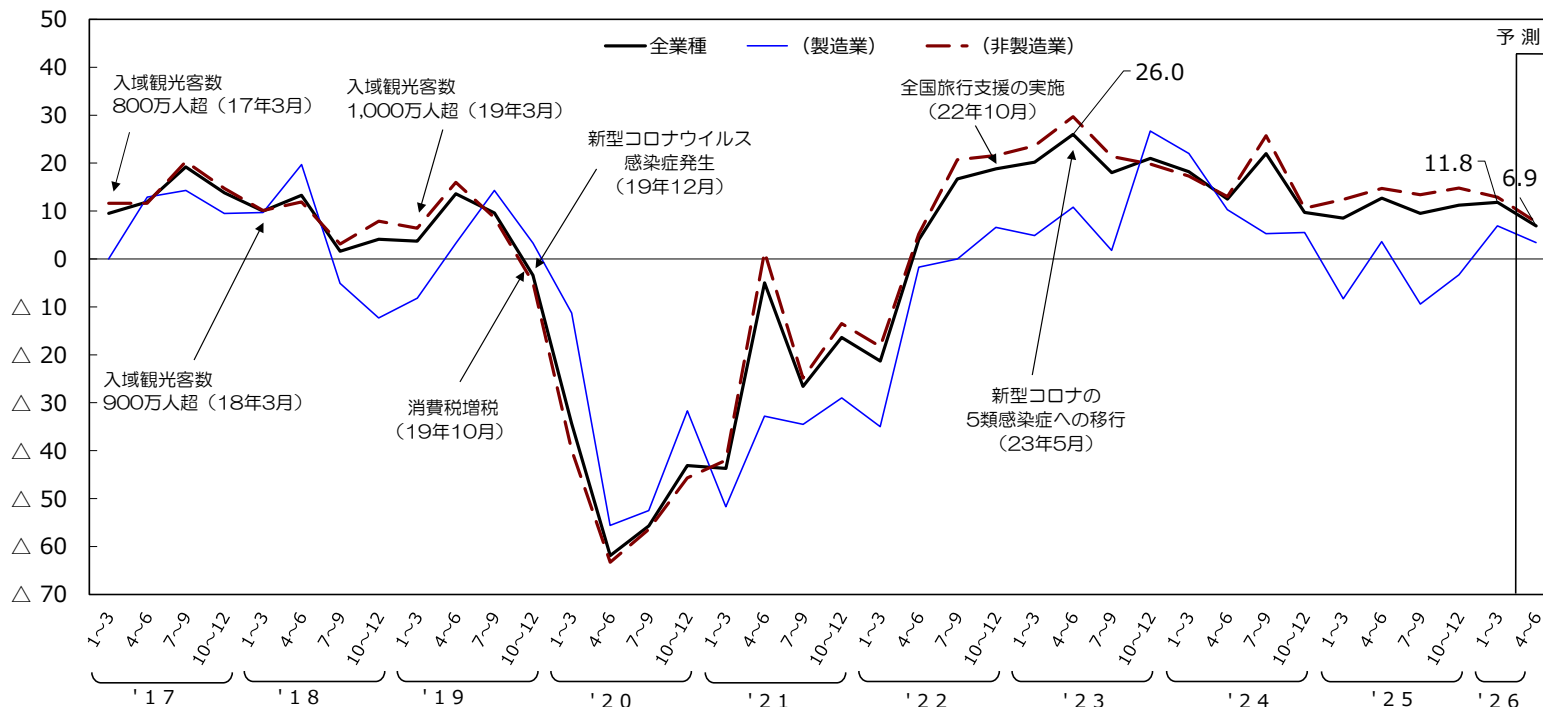
調査部 金融経済調査課(担当:奥間) 沖縄県那覇市おもろまち1-2-26 電話:098-941-1725

調査結果の概要 (I)業況判断D.I.

- 実績(1~3月期):「好転」超幅がほぼ横這いとなり、**16期連続のプラス** [前期11.2%ポイント(以下、単位省略)⇒当期11.8]
 - 人手不足、原材料高、人件費増の影響がみられるも、引き続き観光需要、個人消費が堅調に推移していることから、県内景況は拡大している。
- 見通し(4~6月期):来期は「好転」超幅がやや縮小する見通し [来期6.9]
 - 引き続き人手不足、原材料高、人件費増の影響はあるも、県内景況は総じて拡大基調が続くとみられる。
 - ただし、中東情勢の影響について、今後の動向を注視する必要がある。



図表I 業況判断D.I.の推移

(単位:%ポイント)




(2)景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

実績：15期連続の「 晴れ」 [前期18.2⇒当期20.3]



運輸業で「 (晴れ)」→「 (快晴)」


建設業、情報通信業で「 (薄曇り)」→「 (晴れ)」



製造業、卸売業、サービス業で引き続き「 (晴れ)」

小売業、飲食店・宿泊業で「 (快晴)」→「 (晴れ)」

見通し：引き続き「 晴れ」となる見通し [来期16.6]

小売業で「 (晴れ)」→「 (快晴)」














製造業、卸売業、サービス業、飲食店・宿泊業で引き続き「 (晴れ)」

運輸業で「 (快晴)」→「 (晴れ)」

建設業、情報通信業で「 (晴れ)」→「 (薄曇り)」

図表2 全産業における景況天気図の推移

(単位:%ポイント)

区分	2024年		2025年				2026年		
	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 前回実績	1~3月期		4~6月期	
景況天気図	 14.2	 12.2	 17.0	 16.4	 18.2	 (18.1)	 20.3	 16.6	
	 快晴 — 30以上~100以下	 晴 — 10以上~30未満	 薄曇り — △5以上~10未満	 曇り — △30以上~△5未満	 雨 — △100以上~△30未満				

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

項目 業種	調査対象 企業数 (A)	回答数 (B)	回答率 (%) (B)/(A) ×100
全産業(※1)	364	306	84.1
製造業	68	58	85.3
建設業	67	59	88.1
卸売業	47	42	89.4
小売業	47	40	85.1
運輸業	32	28	87.5
情報通信業(※2)	23	19	82.6
サービス業	44	34	77.3
飲食店・宿泊業	33	24	72.7

※1 全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

※2 情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し自計記入またはWEB調査システムからの回答を求める方法。さらに、一部企業にヒアリングを実施。

5. 調査対象期間

当期：2026年1～3月期実績

来期：2026年4～6月期見通し

6. 調査実施期間

2026年2月中旬～2026年3月上旬

(発送：2026年2月16日、回収基準日：2026年3月6日)

7. 用語説明等

- 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- D.I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD.I.を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

II. 調査結果 1. 業況判断

— 当期は「好転」超幅がほぼ横這いとなり、16期連続のプラス

来期は「好転」超幅がやや縮小する見通し —

- 自社の業況を総合的に判断する当期の業況判断D.I. (全産業)は11.8と「好転」超幅がほぼ横這いとなり、16期連続のプラスとなった。
- 飲食店・宿泊業の一部で新規開業に伴う競合の影響により「好転」超幅が大幅に縮小した。
- 製造業で価格転嫁の実施等により「悪化」超から「好転」超に転じ、情報通信業で価格転嫁や経費削減により「保合い」から「好転」超になる等、好調な観光需要、個人消費を背景に全ての業種で「好転」超となった。
- 来期の業況判断D.I.は6.9と、「好転」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

図表3 業況判断D.I. (前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合)

(単位:%ポイント)

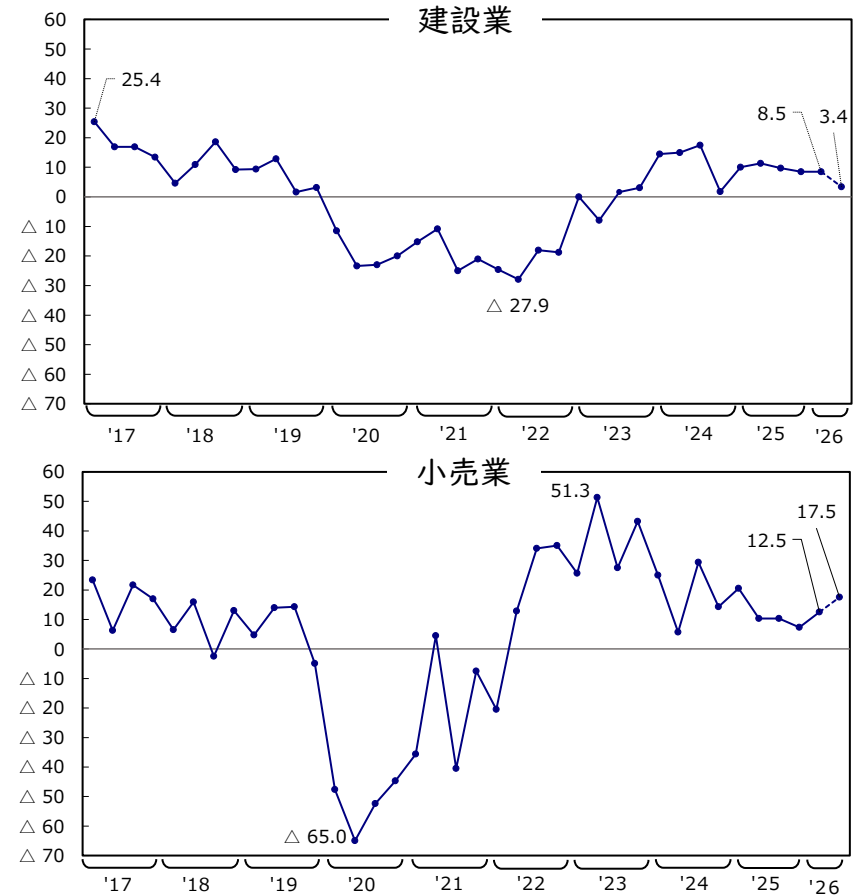
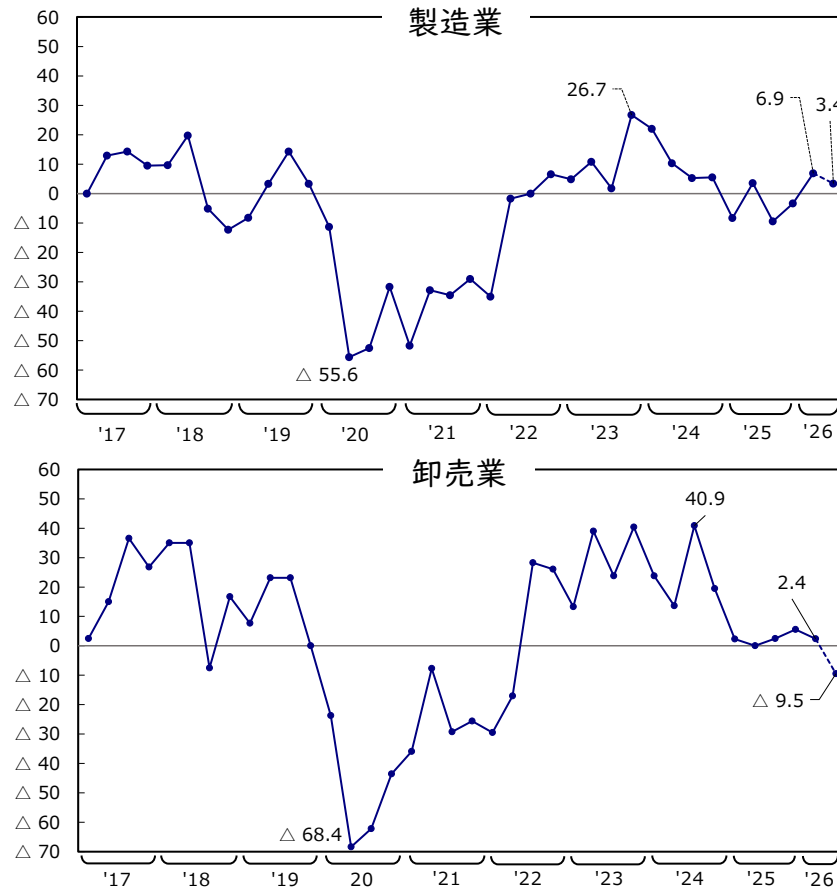
業種	区分	2024年				2025年				2026年				
		10~12月期		1~3月期		4~6月期		7~9月期		10~12月期		1~3月期	4~6月期	
		実績		実績		実績		実績		前回実績		前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I.(①-②)	9.7		8.5		12.7		9.5		11.2		(10.9)	11.8	6.9
	① 好転(%)	27.0		26.0		27.7		24.8		26.6		(23.4)	27.5	20.6
	不変(%)	55.7		56.4		57.3		59.8		57.9		(64.1)	56.9	65.7
	② 悪化(%)	17.3		17.6		15.0		15.4		15.5		(12.5)	15.7	13.7
製造業		5.5		△ 8.3		3.6		△ 9.4		△ 3.3		(11.7)	6.9	3.4
建設業		1.8		10.0		11.3		9.7		8.5		(10.2)	8.5	3.4
卸売業		19.5		2.3		0.0		2.5		5.6		(2.8)	2.4	△ 9.5
小売業		14.3		20.5		10.3		10.3		7.3		(12.2)	12.5	17.5
運輸業		23.3		17.2		25.8		34.5		28.6		(10.7)	21.4	21.4
情報通信業(※)		6.3		11.1		5.3		0.0		0.0		(16.7)	15.8	0.0
サービス業		△ 7.5		△ 4.9		18.4		10.8		13.9		(5.6)	14.7	8.8
飲食店・宿泊業		29.2		40.7		38.5		34.8		50.0		(20.8)	29.2	20.8

※情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

- 製造業では、窯業土石で価格転嫁の実施、金属製品で受注増等より「悪化」超から「好転」超となった。
- 建設業では、求人難や人手不足による受注機会損失の影響があるものの、底堅い建設需要により「好転」超幅が横這いとなった。
- 小売業では、観光需要の増加や個人消費が堅調に推移したことで「好転」超幅が拡大した。

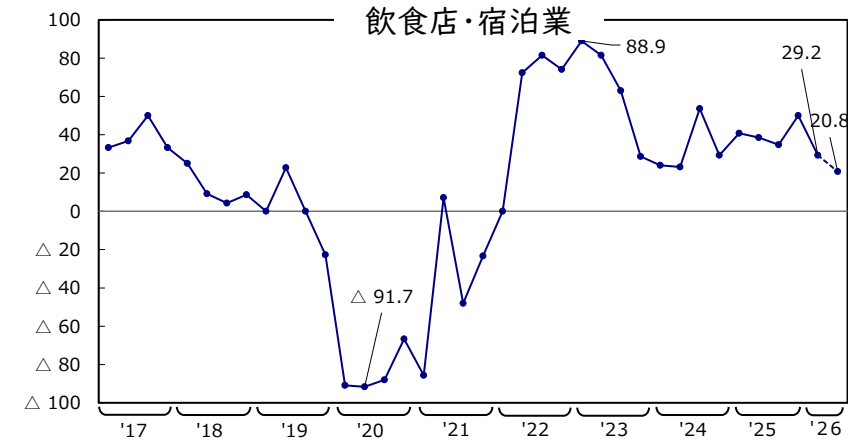
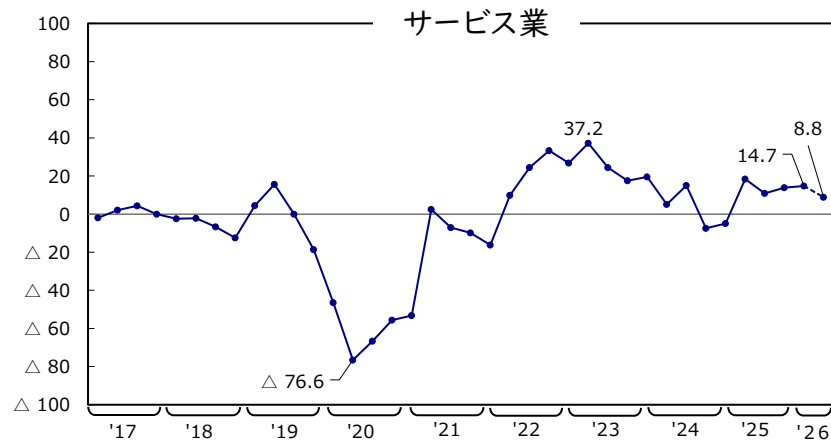
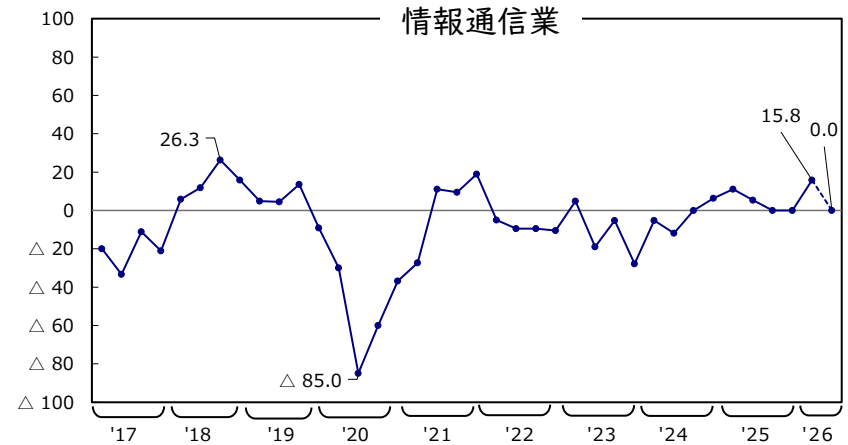
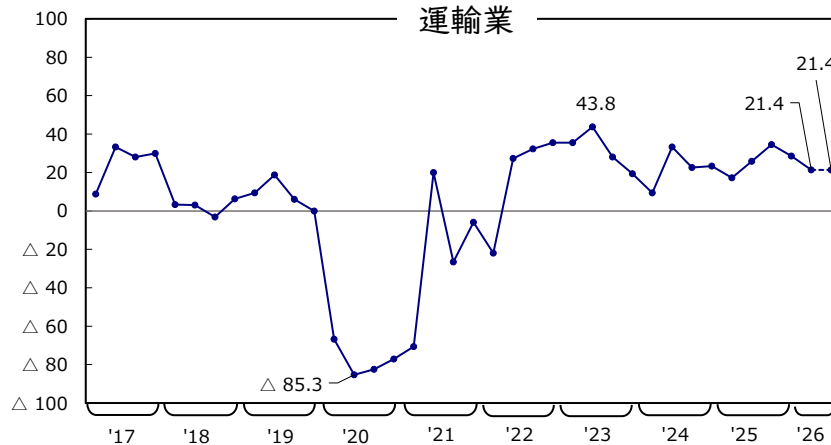
図表4-1 業種別の業況判断D.I.の推移

(単位:%ポイント、点線は見通し)



- 運輸業では、好調な観光需要により旅客運送や貨物などの輸送需要の増加がある一方、運転手不足により売上機会を逃したとの声も聞かれ「好転」超幅が縮小した。
- 情報通信業では、価格転嫁による売上増加や経費削減により「保合い」から「好転」超となった。
- 飲食店・宿泊業では、一部で新規開業に伴う競合の影響もあり、「好転」超幅が大幅に縮小したものの、好調な観光需要により「好転」超を維持した。

図表4-2 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、点線は見通し)



2. 景況天気

— 当期は15期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

- 当期の県内企業の動向を全産業ベースで見ると、売上D.I. (11.5→17.6)で「増加」超幅が拡大、採算水準D.I. (35.5→37.6)で「黒字」超幅がやや拡大、資金繰りD.I. (7.6→5.6)で「楽」超幅がほぼ横這いとなったことから、景況天気(18.2→20.3)は15期連続の「晴れ」となった。
- 来期の見通しは、採算水準D.I. (32.7)で「黒字」超幅がやや縮小、資金繰りD.I. (0.0)で「楽」超から「保合い」となるものの、売上D.I. (17.0)で「増加」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気(16.6)は引き続き「晴れ」の見通し。

図表5-1 景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年				2025年				2026年					
		10~12月期		1~3月期		4~6月期		7~9月期		10~12月期		1~3月期		4~6月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し	前回実績	前回見通し
全産業		14.2	12.2	17.0	16.4	18.2	(18.1)	20.3	16.6						
製造業		12.1	8.3	9.5	Δ2.5	10.6	(17.2)	13.8	16.7						
建設業		3.0	6.7	12.9	9.7	5.6	(9.0)	14.1	6.8						
卸売業		26.8	21.7	18.3	17.5	19.4	(24.1)	17.5	15.1						
小売業		21.9	23.9	25.6	30.8	31.7	(23.6)	27.5	30.8						
運輸業		21.1	20.7	32.3	25.3	26.2	(27.4)	34.5	21.4						
情報通信業		Δ4.2	Δ5.6	Δ8.8	Δ1.7	Δ1.9	(14.8)	10.5	0.0						
サービス業		10.0	6.5	16.7	25.2	18.5	(13.0)	23.5	19.6						
飲食店・宿泊業		23.6	12.3	28.2	43.5	47.2	(22.2)	29.2	20.8						

	快晴	—	30以上~100以下
	晴	—	10以上~30未満
	薄曇り	—	△5以上~10未満
	曇り	—	△30以上~△5未満
	雨	—	△100以上~△30未満

図表5-2 全産業における主要3指標の推移

区分	2025年	2026年	
	10~12月期	1~3月期	4~6月期
全産業			
	前回実績	前回見通し	今回見通し
売上D.I.	11.5	(16.4)	17.6
採算水準D.I.	35.5	(33.6)	37.6
資金繰りD.I.	7.6	(4.3)	5.6

2-1. 売上

— 当期は「増加」超幅が拡大、来期は「増加」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の売上D.I.は、全産業で17.6と「増加」超幅が拡大し、16期連続で「増加」超を維持した。
- 飲食店、宿泊業の一部で新規開業に伴う競合の影響もあり「増加」超幅が大幅に縮小した。
- 卸売業で観光需要の増加等により「減少」超から「増加」超に転じ、運輸業で観光貸切バスの需要増加等により、情報通信業で価格転嫁等により「増加」超幅が大幅に拡大した。
- 来期は、全産業で17.0と「増加」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表6 売上D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年		2025年				2026年	
		10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	13.0	7.5	11.8	11.1	11.5	(16.4)	17.6	17.0
	① 増加(%)	37.3	37.3	38.9	36.9	36.8	(32.2)	40.5	33.7
	不変(%)	38.3	32.9	34.1	37.3	37.8	(52.0)	36.6	49.7
	② 減少(%)	24.3	29.8	27.1	25.8	25.3	(15.8)	22.9	16.7
	製造業	7.3	△ 8.3	△ 3.6	△ 9.4	5.0	(15.0)	12.1	19.0
	建設業	△ 8.9	△ 5.0	3.2	0.0	△ 6.8	(0.0)	△ 3.4	△ 5.1
	卸売業	31.7	18.6	△ 12.5	△ 10.0	△ 13.9	(8.3)	2.4	△ 7.1
	小売業	11.4	28.2	30.8	28.2	26.8	(24.4)	35.0	40.0
	運輸業	30.0	10.3	35.5	37.9	17.9	(28.6)	35.7	32.1
	情報通信業	△ 6.3	△ 27.8	0.0	20.0	11.1	(27.8)	21.1	15.8
	サービス業	15.0	7.3	13.2	18.9	22.2	(11.1)	29.4	29.4
	飲食店・宿泊業	33.3	40.7	50.0	43.5	58.3	(41.7)	37.5	33.3

2-2. 採算水準

— 当期は「黒字」超幅がやや拡大、来期は「黒字」超幅がやや縮小する見通し —

- 当期の採算水準D.I.は全産業で37.6と「黒字」超幅がやや拡大となり、情報通信業で「保合い」、その他すべての業種で「黒字」超となった。
- 建設業や製造業の一部で価格転嫁が進み「黒字」超幅が拡大した。
- 来期も、全産業で32.7と「黒字」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

図表7 採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2024年	2025年				2026年		
	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期 前回実績	1~3月期 前回見通し	4~6月期 今回実績	4~6月期 今回見通し
全産業 D.I. (①—②)	28.7	32.0	33.1	35.9	35.5	(33.6)	37.6	32.7
① 黒字(%)	44.7	48.3	47.5	50.0	48.0	(44.1)	50.3	43.8
トト(%)	39.3	35.4	38.2	35.9	39.5	(45.4)	36.9	45.1
② 赤字(%)	16.0	16.3	14.3	14.1	12.5	(10.5)	12.7	11.1
製造業	27.3	33.3	35.7	20.8	26.7	(30.0)	34.5	36.2
建設業	16.1	26.7	24.2	25.8	22.0	(23.7)	39.0	23.7
卸売業	58.5	51.2	60.0	62.5	63.9	(61.1)	52.4	47.6
小売業	42.9	46.2	38.5	56.4	51.2	(41.5)	40.0	45.0
運輸業	26.7	44.8	41.9	31.0	42.9	(42.9)	50.0	32.1
情報通信業	△ 18.8	0.0	△ 15.8	△ 20.0	△ 11.1	(16.7)	0.0	△ 5.3
サービス業	25.0	29.3	34.2	45.9	30.6	(30.6)	35.3	29.4
飲食店・宿泊業	33.3	3.7	23.1	56.5	54.2	(16.7)	29.2	33.3

2-3. 資金繰り

— 当期は「楽」超幅がほぼ横這い、来期は「楽」超から「保合い」となる見通し—

- 当期の資金繰りD.I.は、全産業で5.6と、「楽」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期は、全産業で0.0と「楽」超から「保合い」となる見通し。

図表8 資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年		2025年				2026年	
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	1.0	△ 2.8	6.1	2.3	7.6	(4.3)	5.6	0.0
	① 楽 (%)	11.3	10.0	14.3	10.5	14.8	(11.5)	11.8	9.2
	不変 (%)	78.3	77.1	77.4	81.4	78.0	(81.3)	82.0	81.7
	② 苦しい (%)	10.3	12.9	8.3	8.2	7.2	(7.2)	6.2	9.2
	製造業	1.8	0.0	△ 3.6	△ 18.9	0.0	(6.7)	△ 5.2	△ 5.2
	建設業	1.8	△ 1.7	11.3	3.2	1.7	(3.4)	6.8	1.7
	卸売業	△ 9.8	△ 4.7	7.5	0.0	8.3	(2.8)	△ 2.4	4.8
	小売業	11.4	△ 2.6	7.7	7.7	17.1	(4.9)	7.5	7.5
	運輸業	6.7	6.9	19.4	6.9	17.9	(10.7)	17.9	0.0
	情報通信業	12.5	11.1	△ 10.5	△ 5.0	△ 5.6	(0.0)	10.5	△ 10.5
	サービス業	△ 10.0	△ 17.1	2.6	10.8	2.8	(△ 2.8)	5.9	0.0
	飲食店・宿泊業	4.2	△ 7.4	11.5	30.4	29.2	(8.3)	20.8	△ 4.2

3. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がほぼ横這い、来期も「容易」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の民間金融機関からの借入難易D.I.は、全産業で4.2と「容易」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期も、全産業で2.9と「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表9 借入難易D.I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年	2025年				2026年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	7.7	2.8	4.8	4.9	5.3	(4.6)	4.2	2.9
	① 容易(%)	8.7	5.0	6.7	7.2	7.6	(7.9)	6.2	5.9
	不変(%)	90.3	92.8	91.4	90.5	90.1	(88.8)	91.8	91.2
	② 困難(%)	1.0	2.2	1.9	2.3	2.3	(3.3)	2.0	2.9
	製造業	10.9	1.7	1.8	5.7	3.3	(0.0)	1.7	0.0
	建設業	12.5	6.7	9.7	4.8	3.4	(6.8)	3.4	5.1
	卸売業	4.9	4.7	5.0	0.0	2.8	(2.8)	2.4	2.4
	小売業	0.0	0.0	7.7	5.1	9.8	(7.3)	7.5	5.0
	運輸業	0.0	0.0	△ 3.2	0.0	7.1	(3.6)	7.1	7.1
	情報通信業	0.0	0.0	△ 5.3	0.0	0.0	(0.0)	0.0	0.0
	サービス業	7.5	7.3	13.2	5.4	2.8	(5.6)	0.0	0.0
	飲食店・宿泊業	20.8	△ 3.7	0.0	21.7	16.7	(12.5)	16.7	4.2

Ⅲ. 参考 販売数量、販売価格

参考1. 販売数量 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は△0.7と「減少」超幅がやや縮小した。来期は10.7と「減少」超から「増加」超に転じる見通しとなっている。

図表10 販売数量D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年	2025年				2026年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	2.3	△ 12.0	△ 13.3	△ 13.6	△ 2.9	(5.1)	△ 0.7	10.7
	① 増加(%)	32.8	25.4	25.9	25.0	28.5	(27.0)	32.1	30.0
	不変(%)	36.6	37.3	34.8	36.4	40.1	(51.1)	35.0	50.7
	② 減少(%)	30.5	37.3	39.3	38.6	31.4	(21.9)	32.9	19.3

参考2. 販売価格 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は53.6と「上昇」超幅がやや拡大した。来期は47.9と「上昇」超幅が縮小する見通しとなっている。

図表11 販売価格D.I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年	2025年				2026年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	46.6	50.0	59.3	50.0	48.9	(48.9)	53.6	47.9
	① 上昇(%)	52.7	54.2	63.0	59.1	53.3	(52.6)	57.1	51.4
	不変(%)	41.2	41.5	33.3	31.8	42.3	(43.8)	39.3	45.0
	② 下降(%)	6.1	4.2	3.7	9.1	4.4	(3.6)	3.6	3.6

在庫水準、雇用判断

参考3. 在庫水準 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期末は△7.9と、前期末と比べて「過剰」超幅がやや拡大した。

図表12 在庫水準D.I. (当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年	2025年				2026年
		12月期末	3月期末	6月期末	9月期末	12月期末	3月期末
全産業D.I. (①-②)		△ 3.8	△ 6.3	△ 9.6	△ 3.8	△ 5.1	△ 7.9
	① 不足(%)	5.3	3.5	1.5	5.3	3.6	3.6
	適正(%)	85.5	86.6	87.4	85.6	87.6	85.0
	② 過剰(%)	9.2	9.9	11.1	9.1	8.8	11.4

参考4. 雇用判断

- 当期の雇用判断D.I.は、全産業で55.2と「不足」超幅がほぼ横這いとなった。
- 来期は、全産業で55.2と「不足」超幅が横這いの見通しとなっている。

図表13 雇用判断D.I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2024年	2025年				2026年		
		10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 実績	10~12月期	1~3月期		4~6月期
						前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I (①-②)		54.0	56.4	56.1	53.3	57.2	(55.9)	55.2	55.2
	① 不足(%)	55.3	57.7	57.0	54.9	58.6	(57.2)	56.9	56.9
	適正(%)	43.3	41.1	42.0	43.5	40.1	(41.4)	41.5	41.5
	② 過剰(%)	1.3	1.3	1.0	1.6	1.3	(1.3)	1.6	1.6

経営上の問題点

参考5. 経営上の問題点

- 経営上の問題点としては、「求人難」が最も高く、続いて「原材料高」、「人件費の増加」の順となった。
- 業種別では、製造業では「原材料高」の割合が、建設業、卸売業では「求人難」の割合が、小売業、サービス業、飲食店・宿泊業では「人件費の増加」と「求人難」が、運輸業では「原材料高」と「人件費の増加」が、情報通信業では「売上の不振」の割合が最も高かった。

図表14 経営上の問題点 (複数回答)

